

## 「すめろぎのみち」の一考察

野中寛治（倫理研究所研究員）

### はじめに

日本国は今、国のかたちが曖昧になり、行く末をめぐって彷徨しているように思われる。

人間も「本」を忘れると、人生が定まらなくなるように、国家も、国民が「本」から遠ざかるにつれて体をなさなくなるのではないだろうか。

その国には、その国の国柄があり、その国の理想があり、その国民の使命がある。はたして、日本国の国柄、理想、そして国民の使命とは何であろうか。

日本国には、古から「すめろぎのみち」というものが存在している。このすめろぎのみちこそ、日本国の「本」であり、この「本」の中に、日本国の国柄、理想、国民の使命がはっきり示されていると筆者は考える。

この「本」を中心に据えて考えなければ、日本国のかたちや行く末も明確にならないのではないだろうか。よって、本稿で、すめろぎのみちの要点を整理することによって、日本国の国柄、とりわけ日本国の理想と国民の使命を明らかにし、国のかたちを考える一助としていきたい。なお、天皇の事跡やその解釈については先行研究に負うところが多かったことを断っておく。